

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	67	学校名	茨城県立つくばサイエンス高等学校				課程	全日制		学校長名	石塚 照美					
教 頭	飯島 純一				稲垣 夏子				事務室長名	松並 善市						
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	0	実習教諭、実習講師、実習助手	7	事務職員	4	技術職員等	4	計	79
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	科学技術科	63	13	51	19	69	10			183	42	8クラス				
普通科	57	45							57	45	3クラス					

2 目指す学校像

科学技術やデータサイエンスに関する探究活動を通して、次世代の科学技術や現代社会の課題解決をする人財を育成する学校
 大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術や社会の担い手として、未来を切り開く人財の育成を目指す。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	幅広い学問分野への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程を編成・実施する。
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	科学や現代社会への知的好奇心、探究心をもち、未来を創り社会を変える志のある生徒を求める。

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 普通科新設に伴い、入学者数は増加したが、定員は満たしていない。 入学生の基礎学力の差が大きい。 心因性の疾患による長欠などの特別な配慮を要する生徒が増加傾向にある。 ICT 機器等を用いた授業の展開が広がり、生徒の授業評価は目標の 3.5 以上 (4 段階) をクリアした。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特徴 (普通科・科学技術科) を中学生・保護者にきちんと理解してもらい志願者数の増加につなげる。 生徒の進学意識の向上と学習習慣の徹底を図る。 遠隔授業やラーケーション等、生徒の実情に合わせた運用ができてきているか検討する。 授業改善の意識を教職員全員がもつ取り組みをする。
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 四年制大学への進学希望者の割合が 2 年次は 67%、1 年次は 32% Classi を活用した自主学習率が低い。 四年制大学への進学希望者の中で、1 月実施の模擬試験結果に基づく志望校の判定で、B 判定以上を獲得した人数が、2 年次は 28%、1 年次は 41% 	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学や外部講師による講話などを通じて、四年制大学へ進学することの魅力伝える工夫や、数多くある大学に広く目を向けさせる工夫をする。 Classi の利用の仕方や模擬試験の結果について、振り返る機会を設けるなど、自身の学習履歴や到達度に基づいて学習状況の改善を促す工夫をする。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動で指導を受ける生徒数は減少傾向にあるが、様々な特性や複雑な家庭環境など個々の生徒の抱える課題は多い。 令和 5 年度 14 件→令和 6 年度 10 件 自転車の登下校中の事故やマナー違反、バイクによる事故が起きている。 令和 6 年度の登下校中の事故 8 件 	<ul style="list-style-type: none"> 集会時の注意喚起や各学年で実施しているスマホや交通安全の講話に加えて、教科指導や特別活動など学校の活動全般を通じて、他者への思いやりや他者を認め協働していく力を育む。 授業中の生徒観察や個別面談等で日頃から生徒の情報を共有し、生徒の課題に寄り添い、生徒の心の成長を支援できる組織体制の改善を図る。 生徒指導に関する業務の改善、業務の効率化と教職員の負担軽減の工夫をする。
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動を活性化させるため、週 1 回の定期役員会を開いている。また、各委員会が活動計画を立て、自主的・主体的に活動する場を設定している。 学校行事については積極的に参加する生徒が多く、事後アンケートでは 80% 以上の生徒が満足している。 クラス担任を中心にホームルーム活動を計画的に実施している。 British Hills 参加者 18 名 (生徒全体の 12%) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に生徒会活動や学校行事の運営を行えるようになるために、リーダーとなれる人財育成に取り組む。 生徒個々の適性やキャリア形成などを踏まえた主体的な進路選択ができるように、各ホームルームにおいて、キャリアパスポートを活用する。 担当教職員の負担を軽減できるように業務内容の改善を図る。 国際交流行事を企画、実施する。

別紙様式 1 (高)

働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・月平均超過時間 15 時間 24 分 ・月平均 45 時間超過割合 5.9% ・月平均 80 時間超過者割合 0.7% <p>超過勤務時間については減少しており、計画的な年休取得や定時退勤日の実施も進んでいる。しかし、授業や校務分掌の内容により、業務量のバランスについては、不均等な部分がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の役割と人員の見直し、適材適所の教職員の配置、DX化の促進をすることで、業務バランスの適正化を推進する。 ・ICT活用や授業資料の共有、会議の効率化を促進する。
-------	--	--

5 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的かつ協働的な学びの中で、希望進路実現のための確かな学力を育成する。 2 体験に即した教育やICT授業を実践し、個に応じた指導や協働的な学びの実現を図る。 3 生徒のよりよい人間関係を築く力や異文化理解、多様な他者と分け隔てなく交流できる力を向上させる。 4 大学、研究機関との連携を深め、探究活動の深化、生徒の課題解決力とアイデアを具現化する力を育成する。 5 社会情勢や国際社会の変化に柔軟に対応できる力の育成と国際理解教育の推進をする。 6 生徒の学ぶ意欲や興味関心を高める授業や行事の実践をする。 7 月平均 45 時間超過割合を 0%にする。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 教科指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① ICT機器を有効活用し、個別最適な学習指導や協働学習の充実に努める。 ② 年間指導計画に則り、目標に準拠した観点別評価を行うとともに指導と評価の一体化を展開する。 ③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を探究し、生徒一人一人に即した思考力・判断力・表現力の育成に努める。
2 進路意識の高揚と進路希望の実現	<ol style="list-style-type: none"> ④ 各授業や特別活動、学校行事等あらゆる機会を通して、進路に対して考える機会を設け、進路意識の高揚を図る。 ⑤ 生徒の課題解決能力の育成のため、大学・研究機関との連携を深化させる。 ⑥ 4年制大学進学をめざす系統的、段階的指導を確立する。
3 特別活動等の充実	<ol style="list-style-type: none"> ⑦ 生徒が特別活動に積極的に参画する仕組みづくりをし、生徒主体の特別活動の充実に努める。 ⑧ 国際理解教育やボランティア活動を通して、生徒に社会の一員としての自覚をもたせる。

別紙様式 1 (高)

	⑨ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びのポートフォリオ化をし、自己を振り返る活動を行うことでキャリア形成の手助けをする。
4 働き方改革	⑩ 教職員のワークライフバランスの意識の醸成を図り、超過勤務時間を削減する。 ⑪ 定時退勤日、閉庁日の設定、年次休暇の取得を推進する。
5 授業改善の推進	⑫ 生徒の授業評価において授業満足度4点満点中、全教科平均3.5以上にする。 ⑬ 授業改善に向け、相互授業参観、他校視察、研究授業や師範授業の開催、校内研修等を推進する。
6 デジタル人材育成実施に向けた環境整備	⑭ デジタル教材の活用や校内全般でDXハイスクール事業を推進する。 ⑮ AI教育事業を効果的に活用し、生徒のICT活用やAI活用能力の育成に努める。